長洲町立長洲小学校　校長便り　No.５５

# みんなの居場所

**裏面の話題**

**みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。**

令和４年１２月５日(月)

## 子供達の活躍に発奮したい

前任校で校長として「こんな学校にしたい」「こんな子供達を育てたい」ということを伝えるために、私の教え子で箱根駅伝に出場した子のことを話したことがあります。その教え子から先日電話がありました。現在彼は大学を卒業後、駅伝で活躍している安川電機（福岡県）に就職して頑張っています。今年のニューイヤー駅伝にも出場しました。皆さんに応援して頂くために名前をお知らせしますね。（本人の了解もとってあります。）山瀬大成（やませだいせい）選手です。私が玉名市時代に担任したお子さんです。令和５年のニューイヤー駅伝への出場はどうか分かりませんが、私は信じて応援しているところです。

彼らがいた当時のクラスはヤンチャをやりすぎていました。そんなクラスを「このクラスで良かった。」と思わせるために奮闘した時間でしたので、私の自慢のクラスの一つです。この子は今でも大会前と大会後に私に連絡をしてくれます。私は「頑張れ！」と激励するだけですが、彼らは「先生に気合を入れてもらうと、やる気になります。」と言ってくれます。教え子たちの活躍に「教師冥利」を感じることができる私は、実に幸せ者です。

数年前は、医師国家試験に合格した子、司法試験に合格した子、東京都庁に合格した子、成人式を迎える子、結婚した子、子供が生まれた子、教員採用試験に合格した子…、多くの子供達が様々な場所で活躍していて、私も元担任として彼らが頼ってくれるようなそんな人間になりたいと思っています。が、中々うまく行きませんね。

最近、「教師としての成長ってなんだろう。」って考えるようになっている私澤田です。答えは中々出せない私ですが、私が接してきた子供達の記憶の中に残る先生になれるように、いつまでも精神的な繋がりが続いていくように、節目でサポートできるように、これからも、真摯に、謙虚に、感謝して、もう駄目だと思っても、あと一歩だけ前に進むことを心掛けていこうと自分に言い聞かせています。

## 子供達が生きる未来社会⑥

「グローバル化」が進んでいますが、そもそも「グローバル化」って何？　私も調べてみました。

『「グローバル化」とは、情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象ととらえることができる。』

フムフム、要するに一国で完結するようなことは殆どなく、地球上のあらゆる国が関与している関係している、そのような状態が広がっているということですね。そういえば先日、テレビでマイクロプラスティックの問題が取り上げられていましたが、あの問題は日本だけで解決できる問題ではありません。特に海洋環境に与える影響が大きく、世界の人々が関心を持ち、自らの問題として取り組む必要がある問題です。だから国際会議も実施されているのです。この問題に限らず、その他の環境問題、人権問題、政治経済問題等々、世界が一つとなって解決への策を考えなければなりません。そのためには、教育は大きな期待や責任を負っています。世界で活躍するグローバル人材の育成です。グローバル人材の育成には語学力等が必要だというイメージがありますが、それは今後ＡＩが通訳をすることで解決すると考えています。グローバル人材育成の上で絶対に必要なことは、故郷に対する愛です。故郷を愛しているからこそ、他者（他国）との協働、連携もできるのです。

## シリーズ「自分を語る」#５５

平成１１年度、９月のある日の通勤途中の出来事です。私は朝からあいさつ運動をするために早めに通勤していました。国道２０８号線を右折して、あと１００ｍで到着という交差点で対向車が過ぎるのを待っている時のことです。突然、大きな音と衝撃が走り、何が起こったかもわからない状態で正気を取り戻そうと意識を集中しました。まず、事実を確認しなければと周りを見回しました。その時、首筋に筋肉が引きつるような嫌な痛みが走りました。（首をやっている…？）ルームミラーを目だけで追うと、そこには１台のセダンが斜めに止まっていて、中から人が出てくる気配がありました。私の車は交差点の真ん中で停止していました。咄嗟に（他車の邪魔になる、よけよう。）と思い、左路肩まで移動しました。そこで車から降りました。他の部分は異常がないようでしたが、とにかく首が痛かったのを覚えています。車から降りるとすぐ脇に人が立っていて、開口と同時に「すみませんでした！　大丈夫ですか？」と一言。いわゆる追突でした。状況が解って、まずは警察に連絡しました。お巡りさんが来られるまでの間、被害状況を確認しました。まずは「首」です。後になっての診断名は「頸椎捻挫」いわゆる「おち打ち」です。次に「手首」です。これはハンドルを握っていたことに由来するのですが、後方からの衝撃で手首を痛めていました。手首はあまり痛くなかったのですが、運転を片手に頼っていたような記憶があります。車の被害は凄かったです。バンパーが外れ、後方部分の車体フレームが曲がっていました。

この事故の原因は運転手の居眠りでした。私よりも随分お若い方で、荒尾までの通勤途中だったそうです。４月に就職し、仕事に慣れてきた頃の心の緩みだったのでしょう。泣きそうな顔をされていたので、あまりお話はしませんでしたが、「お互い運転は気を付けましょう。」と言葉を交わし、後処理は保険会社に任せました。私は交差点でしっかりした姿勢で待っていただけなので、責任は問われませんでした。防衛運転という視点で考えた場合、どうしたら防げるだろうと今でも考えることがあります。

その後は、整形外科の電気治療に３カ月ほど通う羽目になりました。事故直後の写真には、運動会の練習時期でしたので首に包帯を巻き、真っ直ぐ前しか向けない私澤田の姿があります。しかも、「しっかり治しておかないと後が怖いよ。」と有り難いアドバイスを他の先生方から頂き、毎日、しっかり電気治療に行きました。長かったです。自分で「もう心配ないな。」と思えるまで、結局半年くらいかかりました。後になって思うのですが、どんなに気を付けていても、こういう「もらい事故」もあるということです。その後、交通事故を経験することはありませんが、万が一ということもあります。歩行者として、大人も子供も危機感を持っておくことは事故を未然に防ぐために必要なのかもしれません。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）